

# 夏なのにコートって

## 一見当識障害への対応

認知症

しち・はち・きゅう  
789  
みんなであらゆる  
試して  
学んで

夏なのにコートって

認太郎…主人公(認知症)



認太…息子

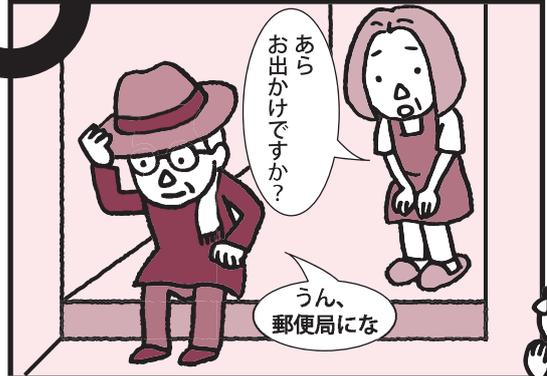
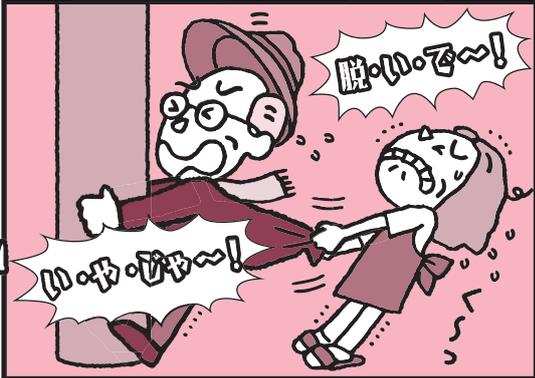


知子…嫁



認左衛門

…認太郎一家のご先祖  
守り神、お助けマン



ほれ、あの新調のシャツじゃ



なかなかキマってるの!



\*いつもうまくいくわけではありません。

これこれ、無理やりはいかんぞ

# 夏なのにコートって

## —見当識障害への対応



### 中核症状 (必ず現れる症状)：見当識障害、認知機能の低下

認知症の症状が進行すると、見当識障害によって今自分の置かれている状況への理解が難しくなってきます。季節に対する認識が薄れ、今が夏なのか冬なのかの理解ができなくなっていきます。着るものが今の時期に合っているかどうかという判断力も低下し、逆に物への固執は強くなったり、体温調節機能も衰えてきたりします。すると、真夏なのにコートやセーターで厚着をしたり、真冬に薄着で外出したりしてしまいます。

真夏に真冬の格好をしていれば、熱中症や脱水などの要因になります。真冬に薄着であれば、低体温症などを引き起こします。周囲の人がさりげなく衣類の入れ替えをしたり、室内の場合は冷暖房を上手に使うなどして対応していきましょう。

このケースのポイント

どうすればいい？

#### 対応法 ①

室内であれば、快適に過ごせる温度設定にします (冷風が直接当たらないようにしましょう)。



#### 対応法 ②

「こちらの方が似合いますよ」、「出かけるから着替えましょう」とさりげなく着替えを促してみましょう。



#### 対応法 ③

夏の厚着には小まめな水分補給、冬の薄着は背中にタオルを入れたり、肩掛けやひざ掛けなどを活用しましょう。



アルツハイマー病や脳血管障害などで頭頂葉が障害されることにより、着衣のような、自分の体と衣服との空間的・連鎖的な関連付けによる動作が困難になることがあります。着方の順番がわからなくなってしまう、季節外れでもなじみのあるものを着たりしてしまいます。

そもそも夏服なのか冬服なのかを判断できない場合も多く、無理に着替えさせようとしても、本人はなぜ着替えなければならないのかわかりません。周囲は「なぜそんな厚着を?」「きちんとしてよ」とやきもきしますが、認識する力が失われているので仕方がないのです。

とても怖いのが、脱水や熱中症、低体温症など。命にかかわる事もあります。これらを十分に理解して、衣類を入れ替えたり、水分補給や温度調節がうまくできるように準備をしましょう。室内ならば、冷暖房を上手に使うのもおすすめです。

— 田口同仁クリニック 田口 雅一 (認知症サポート医、もの忘れ相談医)

医師からのアドバイス

